

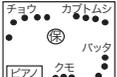
(部分)責任実習 指導計画

実習指導者

印

実習生氏名

印

20xx 年 ○ 月 ○ 日 (△)		場 所	保育室
主な活動 (題材)	探検ごっこ (虫たちの大冒険)	実習 クラス	(4)歳児 ()組 男児(7)名 女児(8)名 計(15)名
幼児の姿 (前日までの 幼児の姿を 多面的に捉 えて書く)	クラスの飼育かごの中に興味をもち、毎日の変化を愛情をもって観察している。率先して、飼育の活動に関わっている子たちがいる。チョウへと変身することを楽しみにしている。また、園庭にいる虫たちに興味をひろげ、保育者にその様子を報告したり、図鑑で特徴を調べている子どもがいる。	保育活動 のねらい	・自分の好きな昆虫を想像し、なりきることを楽しむ。 ・昆虫の観察などを通して発見した特徴を、工夫して表現する。 ・みんなで協力しあうことを楽しむ。
時間	環境構成	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮
10:00 (導入)	 昆虫の絵 森やお花畑を感じる音	○保育者の前に集まり話を聞く ・絵に興味をもち保育者に知っていることを話そうとする。	・活動が始まることを伝え興味をもてるように声かけをする。 ・昆虫の絵を見せながら、どんなことを知っているか質問する。 例) (チョウ/バッタ/カブトムシ/クモ)
10:05	 チョウ カブトムシ クモ バッタ	○絵や写真に登場したもののグループに分かれて座る	・好きな生き物のグループに分かれて座るように伝える。 ・人数のバランスも考慮しながら、グループを決められない子どももやりたい活動ができるように声をかけていく。
10:10	 チョウ カブトムシ クモ バッタ	○やってみよう昆虫になりきって表現を楽しむ ・どんなふうにも動く生き物なのかを話し合い、表現を見つけながら動いてみる。	・音楽がなっている間、グループで昆虫に変身して動くよう伝える。 ・子どもの声を受け止めながら、やってみようの思いに共感を示し、グループでの活動に安心感をもって取り組めるようにする。 ・普段目にする昆虫の動きを思い出せるように言葉かけをする。 ・動きを誘ったり、子どもの動きを褒めながらなりきって動くことを楽しめるようにする。
10:15 (主活動) ※サブシー ト参照	楽しい雰囲気の効果音	○チョウやバッタになり、野原を冒険する ・野原で楽しく遊びあう昆虫の動きを表現する。 ・チョウやバッタ、クモ、カブトムシのそれぞれの動きの特徴を意識して動く。 ・雨に濡れないように隠れる。 ・水浸し野原から逃げ惑う表現をする。 ・虫たちの思いになって意見を言う。 ・ほかの昆虫たちとも一緒に冒険する方法を工夫して考える。	子どもたちが動きたくなるように虫たちの冒険のお話を展開する。 例) 「ここは○○園のひろーい、ひろーい野原です。おや、葉っぱの陰には元気な昆虫たちがたくさんいます。」 「チョウは花から花へ、バッタは跳ね回り、クモは綺麗な網を作っています、カブトムシが力強くお相撲をしています」 「あれボツボツ、急に雨が降ってきたよ！隠れなきゃ!」 「雨は止まずに大変、虫のみんなの大好きな原っぱが洪水になってしまいました。」 「もうここには住めないわ…。どうしたらいいかな?」 「そうだ！新しいすみかを探しに行こう」 「飛べないクモさんはどうしようか」 「クモさんが糸でハンモックを作って力持ちのカブトムシがのせてあげよう」 「その間、バッタとチョウは新しいお家探しに行こう!」 「さあ、チョウとバッタが見つけた新しいお家まで冒険だ」 「新しいおうちはどこなところかな。…」
10:25 (まとめ)		○保育者のまわりに集まる ・冒険の感想を話す。	・全員が伸び伸びと楽しく動くようにする。 ・場面に合わせてタンバリンや鈴、雨の音など効果音を取り入れて雰囲気を感じ上げる。(先生がピアノを弾ける場合は即興的に音をつけてもよい。)
10:30			・この遊びが終わったことを知らせ集まるように告げる。 ・冒険に挑戦したことを褒めながら、満足感が味わえるように声かけをする。
自己振り返り・評価等			